

< 著者と語る・サイエンス読書カフェ 09月15日 >

コロナ禍、誰が何を伝えたか

2020 年から始まったコロナウイルス・パンデミック(COVID19)、感染症対策に当たった専門家や行政担当者はどのように情報を発信し、ネットサイトやジャーナリストは何を伝えたのか。2009 年のインフルエンザ発生時に作られた「対策行動計画」がコロナパンデミックでは顧みられなかったことなど、日本では「評価と、その失敗に学ぶ」動きが見られません。同志社大学グループの野口範子さんたちは、社会的混乱が一段落した 2024 年、パンデミックでコミュニケーションを受け持った専門家、ジャーナリストらをインタビューし、高い確率で起こるとされる次回のパンデミックに必要な「科学コミュニケーション」のかたちを明らかにしようと思いました。

状況を混乱させた原因は何か、パンデミックへの備えには何が必要か。次世代へのメッセージなど、渡辺政隆、元村有希子、榎太一さんら 4 人の共同作業もうかがいながら、改めてパンデミック対策を考えたいと思います。

日時: 2026 年 09 月 15 日(火)午後 6 時 15 分から

場所: 東京・大手町、読売新聞本社 3 階、新聞教室(地下鉄・大手町駅 C-3 出口)

今回も、会場と、オンラインの両方を使って開催します。

参加費: 会場 2000 円、オンライン 1800 円

問い合わせ: よみうりカルチャー大手町スクール事務局 (03-3642-4301)

このサイトにも、案内があります。

会場受講: <https://www.ync.ne.jp/otemachi/kouza/202607-18011601.htm>

オンライン: <https://www.ync.ne.jp/otemachi/kouza/202607-18011602.htm>

